

2023年度 外国語学研究所 (結果)

| PLAN(計画)   | DO(実施)  |           | CHECK(評価)   |    | ACITON(次への改善)  |
|--|---|-----------|---|----|--|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。   | D:計画を実行しその効果を測定する。  | 実施状況(実施率) | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。   | 評価 | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる  |
| <b>A. 収容定員の充足を目指す募集戦略</b><br>(1) 広報活動の再検討・拡充(HPの見直し、SNSの再活用、講演会の活用等)<br>(2) 募集戦略に注力した生涯学習センター連携講座の実施検討<br>(3) 在学生対象の学内説明会/相談会の実施時期および方法の検討<br>(4) 学外向けのオンライン相談会の実施時期および方法の検討               | <b>収容定員の充足を目指す募集戦略</b><br>(1) 大学院HPに特別研究教員の紹介ページを新設した<br>(2) 募集戦略に注力した生涯学習センター連携講座を実施した<br>(3) 在学生対象の学内説明会/相談会を実施した<br>(4) 学外向けのオンライン相談会を実施した | 95%       | <b>収容定員の充足を目指す募集戦略</b><br>(2) 生涯学習センター連携講座の実施が募集戦略の成果に直結しなかった<br>(3) 在学生対象の学内説明会/相談会を実施したが、出願者はいなかった                      |    | <b>収容定員の充足を目指す募集戦略</b><br>(2) 生涯学習センター連携講座のテーマ、実施時期、実施方法を再検討する。そのため2024年度から新たに「広報・募集戦略委員会」を設置する。<br>(3) 在学生対象の学内説明会/相談会について実施方法や時期を再検討する。              |
| <b>B. B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善</b><br>(1) 定期交流研究会の継続と発展<br>(2) 授業評価の徹底、およびその分析結果をもとにした指導方法・体制の改善<br>(3) 学生ニーズ調査の実施、およびその分析結果をもとにした指導方法・体制の改善<br>(4) アカデミック・ライティング科目開設の効果測定の仕組みの検討 | <b>B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善</b><br>(1) 定期交流研究会や修士論文中間発表を実施した<br>(2) 授業評価を徹底した  | 40%       | <b>B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善</b><br>(1) 定期交流研究会は大学院生の参加者減が見られた<br>(3) 指導方法・体制については「副指導」「副査」の定義が曖昧で、修士論文指導に支障が起きた。 |    | <b>B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善</b><br>(1) 学生が主体的に実施、継続できる勉強会の開催を検討する。また修士論文・課題研究の中間発表のより効果的な実施形態を模索する。<br>(3) 「副指導」「副査」の定義を明確にし、副指導体制の見直しと強化を図る。 |
| <b>C. 中学校・高等学校専修免許(英語)取得のための授業科目の整備</b>  | <b>中学校・高等学校専修免許(英語)取得のための授業科目の整備</b><br>上記を実施、開講科目を作らない配慮をした。   | 100%      | <b>中学校・高等学校専修免許(英語)取得のための授業科目の整備</b>  |    | <b>中学校・高等学校専修免許(英語)取得のための授業科目の整備</b><br>教職課程を履修する学部生の中で、免許取得に至らなかった学生や、教員採用試験に不合格した学生の受け皿になるような体制作りを行う。  |
| <b>D. 海外研究者および大学院生との交流</b><br>(1) FDへの講師招聘<br>(2) 海外の大学院生とのオンラインによる交流  | <b>海外研究者および大学院生との交流</b><br>(1) FDへの講師招聘を行なった。   | 80%       | <b>海外研究者および大学院生との交流</b><br>(1) FDへの講師招聘を行なったが、学内の学部生・大学院生が中心で、学外からの参加者が少なかった。   |    | <b>海外研究者および大学院生との交流</b><br>(1) 学外からの参加者を多く見込めるよう、テーマの選定や日時について再考する。  |
| <b>E. センターとの連携</b><br>(1) 生涯学習センター:例年開催の連携講座の実施<br>(2) 教職センター:教員免許取得のための学生サポート<br>(3) 国際交流センター:ウクライナからの留学生のサポート  | <b>センターとの連携</b><br>(1) 生涯学習センターとの連携講座の実施した  | 30%       | <b>センターとの連携</b><br>(1) 生涯学習センター:大学院への志願者増にはつながらなかった<br>(2) 教職センター:連携体制を築くことができなかった  |    | <b>センターとの連携</b><br>(1) 生涯学習センター:大学院への志願者増にはつながるようなテーマの選定や開催方法を再検討する。<br>(2) 教職センター:教職センターおよび外国語学部との協力関係を構築する。  |
| <b>F. 他研究科との連携</b><br>(1) 秋入学を可能にする入試体制の検討<br>(2) 他研究科聴講の実施・拡大<br>(3) 日本語サポートの体制の検討  | <b>他研究科との連携</b><br>(2) 他研究科聴講の実施を確認した   | 60%       | <b>他研究科との連携</b>   |    |  |

2024年度 外国語学研究所

| PLAN(計画)   |
|--|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。   |
| <b>収容定員の充足を目指す募集戦略</b><br>(1) 大学院HPの充実(文京祭イベントや中間発表会のお知らせなど)を図る。<br>(2) 生涯学習センター連携講座のテーマ、実施時期、実施方法を再検討し、入学増に繋げる。<br>(3) 学外から招聘講師を招き、FDを兼ねた講演会の実施。学内外から聴衆が集まるようなテーマを設定する。<br>(4) 在学生対象の学内説明会/相談会について実施方法や時期を再検討する。<br>(5) 学外向けにオンライン進路相談会を実施する。 |
| <b>B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善</b><br>(1) 副指導体制の見直しと強化(規定や内規の再検討)<br>(2) 修士論文・課題研究の評価基準の明確化(ループリックの活用)<br>(3) 優秀論文賞などの選考基準の明確化   |
| <b>海外研究者および大学院生との交流</b><br>(1) LUおよびLUJとの交流を実現させる(LUでの修士論文調査、LUJでの語学関連授業の履修、コロキアム等での研究発表など)。   |
| <b>各センターとの連携</b><br>(1) 生涯学習センター:大学院への志願者増につながるようなテーマの選定や開催方法を再検討する。<br>(2) 教職センター:教職センターおよび外国語学部との協力関係を構築し、「外国語学研究所=英語教員を目指す学生&現役の英語教員のための研究科」の実現を目指す。  |